

# 世界防災Jr. 会議 グッド減災賞

# 金賞受賞!

# 多高通信

宮城県多賀城高等学校  
多賀城市笠神2-17-1  
発行 防災教育担当

# 国連防災世界会議 特集号2015.3.14-18

## 本校の取組を世界に向け発信

東日本大震災後、地道に行ってきた本校の防災・減災教育活動が認められた。14日、仙台市民会館大ホールで行われた国連防災世界会議のサブイベント「ユニア会議」において本校の発表「命を守る 未来に伝える」が最高賞の「金賞」に輝いた。

発表者は、津波標識設置活動に参加した後藤環君(2年)と本校で行われた国際交流行事に参加した下山彩絵さん(2年)。通学防災マップ、防災ワークショップ50を超す応募案件の中から、まず審査委員会が優秀賞9件を選出。当日は9件の発表が行われ会場での投票と審査員票の合算で本校が最優秀賞となり、副賞40万円を獲得した。賞金は今後の防災教育に使われる。

そのほかに、招待講演として、第一高等学院生徒による経験談、イタリアの高校生の防災・減災についての考えと取組、大川小学校卒業生の校舎保存に向けての活動についての報告があった。会議の途中では減災産業振興会理事である安倍昭恵首相夫人が、防災・減災に取り組む青少年へ励ましの言葉を送った。

## 「次世代の命を養成する」 「3D」の教訓を伝える

「災害に強いコミュニティ」とは？15日、宮城県民会館では復興研究者の第一人者、米國パデュー大学准教授ダニエル・P・アルドリッチ氏と山形大学地域教育文化学部教授上山真知子氏の講演が行われた。講演の後、宮城県内の高校生約50名が集い「人口6万人の都市が地震に襲われた。市職員として地域コミュニティを活性化させながら災害からの復興事業を考えよ。」というテーマでワークショップを行った。

本校1ス前では大勢の市民が足を止めた。会期中の13日から16日までの4日間、ぶらんどむむ一番町商店街では「被災地とともに考える防災展」が行われた。県内外の研究機関

グループ発表に臨む伊藤さん(左)と亀山さん(右)

## ぶらんどむむ一番町

一五〇名を超す聴衆の前でプレゼンを行う木島さん(左)と亀山さん(右)

下山彩絵さんの感想  
このように大きな会場で発表しても緊張しました。他の受賞プログラムもすばらしく、本当に私たちがもらっているんですか？というのが正直なところ。先輩から受け継がれている標識設置や国際交流など、さらに発展させながら後輩に受け継いでいくことで防災・減災につながればと思っています。

発表する後藤環君(左)と下山彩絵さん(右)

その被災者であり、その復興過程の研究から、地域コミュニティの大切さを統計的な解析で明らかにしている。上山教授は臨床心理学が専門で、東日本大震災直後から自宅のある多賀城市を中心に子どもや教員の心理的ケアなどにあたっている。

ワークショップでは、これらの基調講演をもとに話し合い、本校から参加者した6名の生徒も他校の高校生とグループをつくり、討議・発表した。その後、ドラムカフェ・ジャパンによる参加型パフォーマンスが

や大学と並び、本校も津波標識設置活動を説明するパネルや実際に使われている津波標識、国土交通省から借り受けた「釜石の奇跡」で知られる釜石東中学校の津波で被災した教材、平成28年度開設予定の「災害科学」のPRポスターなどを展示した。とくに津波に襲われた「トランペット」や「クラリネット」などの教材には、いまだ生々しく津波を思い起こさせるような土や砂が付着しており、たくさんの市民が足を止め写真に収めるなどしていた。

## せんだいメディアテーク

定禅寺通りに面するせんだいメディアテークでは、会期中「世界の防災展」が開かれており、ここでも本校の防災・減災教育活動の発表を行った。

28年度に開設される災害科学科の教育において、連携協力を結んでいる宮城教育大学から発表の機会を与えられたもので、会場内は国際会議の名前に相応しく海外からの発表者や来場者でどのブースも賑わいを見せていた。

その会場内に設置された発表用コーナーで15日午後、木島爽夏さん(2年)と亀山沙月さん(1年)がプレゼンテーションを行った。発表コーナーには市民の他、外国人や研究者らも数多く訪れ、一五〇名を超える中での発表となった。予想以上の人出に、準備していたパンフレットも早々になくなった。

木島爽夏さんの感想  
このような発表は初めてで、考えていた以上に多くの人たちが発表を聞きに来てくれてとても緊張しました。でも私たちの活動が伝えることができたし、気持ちよく発表できました。

「世界の防災展」では国連本部をはじめ、その組織下のユネスコ、国連開発計画など様々な機関のブースが設置された。その他にも欧州委員会、フランスやオランダの政府機関やNGO、国内の大学や研究機関、企業に至るまで幅広い組織の防災や減災に対する取組が紹介された。

最高賞の「金賞」を受賞した二年下山彩絵さん(左端)と二年後藤環君(左から二人目)

## 「グッド減災賞」で 発表した内容(抜粋)

通学路の安全 「通学防災マップ」の作成



自宅から学校までの通学経路を記入  
家庭でも通学路を確認



全国と交流する、発信する



フオーラム後、朝日新聞の取材を受けた馬場美咲さんは「被災地を調査する海外研究者の講演を聞いた。外国の人が今でも震災のことを考えていてくれてうれしかった。地域コミュニティについて、防災のために近所づきあいを大切にしたい。」と述べていた。

本校の発表を聞く大勢の聴衆